

要旨 本研究は、前田(2009)で提案されている日本語の条件文の分類をインド・アリア語派に属するマラーティー語に適用し、日本語とマラーティー語の条件表現の類似点及び相違点を考察する。従来のマラーティー語文法において、条件節は主に相関構文の *jar-tar* (if...then) で表現され、irrealis を示す仮定的用法に限定されてきた。一方、日本語の条件接続辞の用法の立場からマラーティー語の条件表現を考察したところ、「～のあと」を示す後置詞の *-var* や従属接続詞の *ki* によっても条件的用法を示すことができることが明らかになった。また、本来仮定的条件を示す相関詞 *-tar* が非条件的用法を示すことも指摘された。

【キーワード】 マラーティー語、インド・アリア語派、日本語、条件表現、対照研究

1. はじめに

インド西部に位置するマハーラーシュトラ州の公用語であるマラーティー語は、日本語と同様に「主語—目的語—動詞 (SOV)」の語順を持ち、後置詞をとる。マラーティー語は、インド・アリア語派に属しながらも、近隣のドラヴィダ諸語から語彙や文法の影響を受けていると考えられている。マラーティー語の条件表現は、一般的にインド・アリア諸語の特徴である相関構文 *jar-tar* (if...then) で示される。しかし、日本語のような語族外の言語と条件の機能を軸に考察することにより、その他の表現が条件文として許容できる可能性がある。

本研究は、前田(2009)で提案されている日本語の条件接続辞の分類をマラーティー語に適用し、マラーティー語の条件表現のヴァリエーションを検討するとともに、日本語との類似点や相違点を整理することを目的とする。

2. 先行研究

一般的に、条件文とは次の事態を示す言語表現だと考えられている。「ある事態が発生する、または発生しないことが予想され、それが起こると、後件の事態が続くことが期待される (Shopen 2007, p.322, 筆者訳)。」つまり、条件文とは前件と後件がともに仮定的な事態を示し、その進行が話し手の期待に沿うものと考えられる。上記を踏まえて、本節では日本語とマラーティー語の条件文に関する先行研究を紹介する。

まず、本研究の軸となる前田(2009)のレアリティーに基づく条件文の分類を紹介する。レアリティーとは「言語によってあらわされた事態と、現実との事実関係 (前田 2009, p.18)」と定義される。例えば、(1)は前件・後件ともに未実現の事態を仮定している、典型的な条件文と言える。一方で、(2)は前件の事態は事実であるが、後件は未実現の事態の仮定である。このように、条件文の表すレアリティーは、「仮定的」のみではなく、「事實的」側面もあることがわかる。

- (1) このボタンを押せば、水が出るだろう。(前田, 2009:38)
- (2) ここまで来れば、誰も追いかけてこないだろう。

前田(2009)は、条件文を ①仮定的レアリティー、②非仮定的レアリティー、③非条件的レアリティーの 3 つに大別し、さらに日本語の条件を表す代表的形式「ば・なら・たら・と」の用法を 15 種類に分類した (表 1)。

日本語・マラーティー語翻訳の手順としては、まず筆者が日本語の例文リストを作成し、そのリストを上記の翻訳者たちにマラーティー語翻訳してもらった。さらに、マラーティー語の自然さと正確さを確認するために、4名のマラーティー語母語話者にクロスチェックを依頼し、翻訳として許容され、マラーティー語としても自然な文を選定した。複数の訳が許容される場合は、下記の様に併記をしている。

- (4) *he baṭaṇ (dab-l-ə tar/dab-l-ə ki/dab-l-ya-vər) kədacit paṇi ye-il.*
 この ボタン(押す-PFV-3NSG COR.then/押す-PFV-3NSG then/押す-PFV-3NSG-OBL-PP) おそらく 水 来る-FUT.3SG
 「このボタンを (押せば/押したら)、水が出るだろう。」

4. 条件表現の対照分析

本節では、前田(2009)の分類をもとに、マラーティー語の条件表現を整理する。

4.1. 条件文の仮定的用法

条件文の仮定的用法には①仮説的用法と②反事実的用法の二つがある。前田(2009)によると、仮説的用法とは、事実かどうかわからないことを仮定することであり、反事実的用法とは、事実でないことが明らかであることを、仮に事実であった場合はどうであるかと仮定することである (前田 2009, p.40-41 参照)。

日本語の仮説的条件文は、主に「ば」、「たら」によってあらわされ、主節に推量のモダリティが現れる。

- (5) このボタンを (押せば/押したら)、水が出るだろう。

マラーティー語の仮説的条件文は、前件に完結相の *-l* を用い、後件に未来時制を示す *-il* または予測を示す *-nar* が現れる。使用される接続詞として、*jar-tar*、従属接続詞の *ki*、後置詞で「～のあと」を示す *-vər* が挙げられる。

- (6) *he baṭaṇ (dab-l-ə tar/dab-l-ə ki/dab-l-ya-vər) kədacit paṇi ye-il.*
 この ボタン(押す-PFV-3NSG COR.then/押す-PFV-3NSG then/押す-PFV-3NSG-OBL-PP) おそらく 水 来る-FUT.3SG
 「このボタンを (押せば/押したら)、水が出るだろう。」

これら3つの接続詞は、上記のように共起可能な場合もあるが、前件の事態が話者にとって確定的な場合、日本語の「たら」と同様に、従属接続詞の *ki* または後置詞の *-vər* が使われる(例文(7), (8)を参照)。同じ文で関連構文の *jar-tar* を使用した場合、日本語の「ば」と同様に、前件の事態が未確定であることが示唆される。

- (7) 6時に仕事が終わったら、すぐに家に帰る。

- (8) *sāha vajta kam (sāmp-l-e ki/sāmp-l-ya-vər) lāgec ghār-i pərət ja-in.*
 6 時 仕事.N(終わる-PFV-3NSG then/終わる-PFV-OBL-PP) すぐに 家.N-LOC 再び 行く-FUT.1SG.
 「6時に仕事が終わったら、すぐに家に帰る。」

前件に事実である事柄を示す仮説条件文において、日本語は「ば」、「なら」、「たら」、「と」を使って表現できるが、マラーティー語は後置詞 *-vər* のみが可能である。

- (9) ここまで来れば、もう誰も追いかけてこないだろう。

- (10) *ithe pəryāntā a-l-ya-vər ata kədacit koṇi paṭhālag kār-ṇar nahi.*
 ここ まで 来る-PFV-OBL-PP 今 おそらく 誰も 追跡.M する-PROSP NEG.
 「ここまで来れば、もう誰も追いかけてこないだろう。」

次に、日本語の反事実的条件文は、主に「たら」、「ば」、「なら」によって表され、主節では動詞の過去形の後に認識的モダリティを示す「のに」や「だろう」などが使われる。

- (11) このボタンを押せば、水が出たのに。

マラーティー語の反事実的条件文は、相関構文の *jar-tar* または後置詞 *-var* によって表される。*jar-tar* を反事実的条件文に使用した場合、前件にも後件にも、動詞の完結相の後に助動詞 *as* (be.IPFV)/*ho* (be.PST) が現れる。

- (12) *he bəṭaṇ (dab-l-e as-t-e tar/ dab-l-ya-var) paṇi a-l-ə as-t-ə.*
 この ボタン (押す-PFV-3NSG be-IPFV-1FSG COR.then/押す-PFV-OBL-PP) 水 来る-PFV-3NSG be-IPFV-3NSG
 「このボタンを押せば、水が出たのに。」

前件に事実である事柄を示す反事実条件文では、日本語は「なら」のみが使用でき、マラーティー語は相関構文の *jar-tar* のみが使われる。

- (13) ここに来るなら、言ってくればよかったのに。

- (14) *tu ithe ye-ṇar hot-as tar mā-la saṅga-yə-la həvə hot-a.*
 あなた.2SG ここ くる-PROSP be.PST-2SG COR.then 私-DAT 言う-OBL-ACC ほしい be.PST-NSG
 「ここに来るなら、言ってくればよかったのに。」

以下に、4.1.で明らかになったことをまとめる。①仮説的条件文において、前件の事態が確定的な場合は日本語は「たら」、マラーティー語は従属接続詞の *ki* または後置詞の *-var* が使われ、前件の事態が未確定の場合は日本語は「ば」、マラーティー語は *jar-tar* が使われる。②マラーティー語の反事実的条件文は、主に *jar-tar* または *-var* で表されるが、仮説的条件文で使用可能だった従属接続詞の *ki* は使用できない。

4.2. 条件文の非仮定的用法

条件表現を使っているものの、前件と後件の事態がいずれもすでに生じた事実を示す場合（事実的条件文）、または多回的・恒常的關係を示す条件文（多回的条件文）を、条件文の非仮定的用法と呼ぶ。日本語の事実的条件文は、主に「と」と「たら」によって表され、後件に過去時制が現れる(例文 15 を参照)。一方、多回的条件文は、主に「ば」と「と」によって表される。恒常的・普遍的關係を示す多回的条件文(一般条件文)は、後件に動詞の非過去が使われ(例文 16 を参照)、過去の反復性、習慣を示す場合は、後件に過去時制を使用することも可能である(例文 17 を参照)。

- (15) 箱を開けたら、中にハンカチが入っていた。(事実的条件文)
 (16) 水は百度になると沸騰する。(一般条件文)
 (17) 子どものころ病気になると、母がリンゴを食べさせてくれた。(過去の習慣を示す多回的条件文)

マラーティー語の場合、事実的条件文は、主に相関詞 *-tar* と後置詞 *-var* が用いられる。仮定的用法と異なり、関係詞の *jar* は現れない。後件には過去時制、または完結相が現れる。

- (18) *bəks (ughəḍ-l-a tar/ ughəḍ-l-ya-var) at rumal hot-a.*
 箱 (開ける-PFV-3MSG COR.then/開ける-PFV-OBL-PP) 中に ハンカチ.M be.PST-3MSG
 「箱を開けたら、中にハンカチが入っていた。」

前田(2009)は、事実的条件文をさらに「連続、きっかけ、発現、発見」の4つに分類した。それぞれの文をマラーティー語に訳した場合、連続には後置詞 *-var*、きっかけには相関詞 *-tar* と後置詞 *-var*、発現には「～の間に」を示す *astana* と相関詞の *tar*、そして発見には相関詞 *-tar* と後置詞 *-var* が使用されることが明らかになった。下記に、マラーティー語の事実的条件文を示す。

- (19) *ekṭi pəḍ-l-ya-var ekdəm thəkvə jaṇəṇ-l-a.* (連続)
 一人.3MSG 落ちる-PFV-OBL-PP 急に 疲れ 感じる-PFV-3MSG
 「一人になると、急に疲れを感じた」

- (20) *bəṭaṇ* (*dab-l-ə tər /dab-l-ya-vər*) *suṭṭe pəise* *a-l-e.* (きっかけ)
 ボタン.N (押す-IPFV-3NSG COR.then/ 押す-IPFV-OBL-PP) おつり .MPL 来る-IPFV-3MPL

「ボタンを押すと、おつりが出てきた」

- (21) *səṅgit* (*əik-ət əst-ana/əik-ət hoto tər*) *jhop* *al-i.* (発現)
 音楽.N (聞く-IPFV be-PRS.PTCP/(聞く-IPFVbe.PST.1MSG then) 眠気 来る .PFV-3FSG.

「音楽を聴いていたら、眠くなってきた。」

- (22) *atta vičar* (*ke-l-a tər/vičar ke-l-ya-vər*) *ləkṣat yetəy* *ki te vičitrə girhaik hot-e.* (発見)
 今 考える (する-IPFV-3MSG COR.then/する-IPFV-OBL-PP) 注意 来る .PRS.3NSG that 彼.3PL 変な 客 be.PST-3MSG

「今から考えると、変な客でしたね。」

マラーティー語の多回的条件文のうち、普遍的・恒常的關係を示す一般条件文は、主に後置詞の *-vər* と従属接続詞の *ki* が使用され、後件には未完結相が現れる。

- (23) *paṇya-ce* *tapman śambhār anṣə* (*jha-l-e ki /jha-l-ya-vər*) *te ukaṭ-t-e.*
 水-GEN.NSG 温度.N 100 度 (なる-IPFV-3NSG then/なる-IPFV-OBL-PP) それ.NSG 沸く-IPFV-NSG

「水は百度になると沸騰する。」

反復性を示す多回的条件を表現する場合、後置詞の *-vər* と従属接続詞の *ki* のほかにも、相関詞の *-tər* も使用できる。

- (24) *kholi-t* (*šir-l-ya-vər/šir-l-o ki/ge-l-o tər*) *kəḍi* *lav-t-o.*
 部屋-LOC (入る-IPFV-OBL-PP/入る-IPFV-MSG then/行く-IPFV-MSG COR.then) 鍵.F かける-IPFV-MSG

「部屋に入ると鍵をかける」

例文(25)のように、過去の反復性を示す場合は、後件に過去の習慣を示す Habitual Past が現れる。

- (25) *lahaṇpəṇi* *ajari paḍ-l-ə* *ki ai sapharčənd kh-ayla* *lav-ayə-či*
 子ども時代 病気 落ちる-IPFV-NSG then 母 リンゴ.N 食べる-NON.FIN APPLY-PST.HAB-3FSG

「子どものころ病気になると母がリンゴを食べさせてくれた。」

以下に、4.2.で明らかになったことをまとめる。①日本語もマラーティー語も、事実的条件文の場合は後件に完結相または過去時制が現れ、一般的条件の場合は後件に未完結相または動詞の非過去が現れる。②マラーティー語の従属接続詞の *ki* は、多回的条件文では使用できるが、事実的条件文では使用できない。③非仮定的用法において、マラーティー語の相関詞の *jər* は省略される。

4.3. 条件文の非条件的用法

条件文の非条件的用法とは、条件表現を使用しているものの、前件と後件の間に仮定性も因果関係も持たない表現である。前田(2009)は、非条件的用法として①並列・列挙、②評価的用法、③終助詞的用法、④後置詞的用法、⑤接続詞的用法を挙げている。下記に、マラーティー語の相関詞 *-tər* の非条件的用法を挙げていく。

- (26) *mi* *kəḍhi ləvkər jhop-t-e* *tər* *kəḍhi ušira jhop-t-e.* (並列・列挙)
 私 時に 早く 寝る-IPFV-1FSG COR.then 時に 遅く 寝る-IPFV-1FSG

「早く寝るときもあれば、遅く寝るときもある」

- (27) *kendra-ši* *caṅgle səmbāndhə thev-l-e* *tər* *čāṅglə əs-t-ə.* (評価的用法)
 センター-with よい.N 関係.MPL おく-IPFV-NSG COR.then よい.3NSG be-IPFV-NSG

「センターと良い関係を築くとよい」

- (28) *tu* *yeš-il?* - *ye-in* *tər!* (終助詞的用法)
 あなた.2SG くる-FUT.2SG? - くる-FUT.1SG ASSR PART
 「あなたくるの？-行くとも！」 (マラーティー語文は Dhongde and Wali, 2000:123 より引用)
- (29) *taro-bəddal mhəṅal tər to evhana baher kheḷə-t əs-el.* (後置詞的用法)
 太郎について 話す.FUT COR.then 彼 今頃 外 遊ぶ-IPFV be-FUT.3SG.
 「太郎なら、今外で遊んでいるよ」
- (30) *təsə əs-el tər tu-la sato mahit ahe?* (接続詞的用法)
 その be-FUT.3SG COR.then あなた.2SG-DAT 佐藤 知る be?
 「それなら、佐藤さんって知ってる？」

上記のとおり、本来条件を示すマラーティー語の相関詞 *-tər* が、日本語と同様に条件以外の5つの機能を持つことが明らかになった。この場合も、関係詞の *-jər* は省略される。また、4.1節と4.2節で挙げられた従属接続詞の *ki* と後置詞 *-vər* に関しては、本来別の機能をもつ接続詞が条件表現にも使われるという解釈であるため、非条件的用法の対象には含めなかった。

5. おわりに

本研究は、前田(2009)が示した日本語の条件接続辞の用法の分類をマラーティー語に適用し、マラーティー語の条件表現の機能と形式を整理した。表2は、日本語とマラーティー語の条件表現の対応を示している。

			レアリティー		日本語	マラーティー語	
			前件	後件			
条件的用法	仮定的	反事実		事実	反事実	なら	<i>jər-tər</i>
				反事実	反事実	たら, ば, なら	<i>jər-tər, -vər</i>
		仮説		仮説	仮説	たら, ば, なら, (と)	<i>jər-tər, ki, -vər</i>
				事実	仮説	たら, ば, なら, (と)	<i>-vər</i>
非仮定的	多回的	一般・恒常	(不問)	(不問)	と, ば	<i>ki, -vər</i>	
		反復・習慣	事実	事実	と, ば	<i>ki, -vər, tər</i>	
	一回的	連続			と, たら, (ば)	<i>-vər</i>	
		きっかけ			と, たら, (ば)	<i>-vər, tər</i>	
		発現			と, たら, (ば)	<i>astana, tər</i>	
		発見	と, たら, (ば)	<i>-vər, tər</i>			

非条件的用法			日本語	マラーティー語
	並列・列挙		ば, なら	<i>tər</i>
	評価的用法		ば, たら, と	<i>tər</i>
	終助詞的用法		ば, たら	<i>tər</i>
	後置詞的用法		ば, たら, なら, と	<i>tər</i>
	接続詞的用法		ば, たら, なら, と	<i>tər</i>

表2：日本語・マラーティー語の条件表現の対照

表2から、日本語もマラーティー語も、前件と後件のリアリティーと条件接続辞の用法に応じて接続詞を使い分けられていることがわかる。それだけでなく、両言語とも仮定的条件文において前件の事態が確定的な場合は日本語は「たら」、マラーティー語は従属接続詞の *ki* または後置詞の *-vər* が使われ、前件の事態が未確定な場合は日本語は「ば」、マラーティー語は *jər-tər* が使われるというように、事態に対する話者の主観によっても条件表現が使い分けられることも明らかになった。さらに、日本語もマラーティー語も、一回的事実

条件を示す場合は後件に完結相または過去時制が現れ、一般条件文には後件に未完結相または動詞の非過去が現れる。

一方で、日本語とマラーティー語の条件表現の異なる点も見受けられた。日本語の条件接続辞「ば・なら・たら」は、仮定的用法を中心としながらも（「と」は、非仮定的用法を中心とする）、様々なリアリティーに対応することができ、非条件的用法も示すことができる。それに対し、マラーティー語の条件的用法は主に相関構文 *jar-tar* によって示される。相関詞 *-tar* は日本語の条件接続辞と同様にリアリティーの変化や非条件的用法にも対応することができる。しかし、条件文のリアリティーに注目したところ、本来条件以外の機能をもつ従属接続詞の *ki* や後置詞の *-var* が、特定の条件表現としてよりふさわしい場面があることが分かった。

このように、機能の立場から条件表現を対照すると、地理的、歴史的接点のない日本語とマラーティー語の間にも、いくつかの類似点や相違点が浮かび上がってくる。これらの類似点の背景が人間の認知によるものなのか、または分析を通して明らかになった相違点が言語独自に発展してきたものなのかは、今後の研究で検討していきたい。

参考文献

- Dhonde, Ramesh Vaman and Wali, Kashi. (2009). *Marathi*. Amsterdam & Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.
- Masica, Colin. (1991). *The Indo-Aryan Languages*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Pandharipande, Rajeshwari V. (1997). *Marathi*. (Descriptive Grammar Series.) London: Routledge.
- Shopen, Timothy. (2007). *Language Typology and Syntactic Description*. Vol. 1 (Clause Structure). Cambridge University Press.
- 有田節子 (2006) 「時制節性と日英語の条件文」, 益岡隆志 編『条件表現の対照』東京: くろしお出版, p.127-150
- 西岡美樹 (2007) 「ヒンディー語の非定形型の副詞節について —日本語との対照—」, 『京都産業大学論集』37, p.63-90.
- 日本語記述文法研究会(編) (2008) 『現代日本語文法 6 - 第 11 部 複文 -』東京: くろしお出版.
- ブラシャント・パルデシ、柴谷方良 (2020) 「マラーティー語の名詞修飾表現—体言化理論の観点から—」, ブラシャント・パルデシ、堀江薫 (編) 『日本語と世界の言語の名詞修飾表現』 p.413-445.
- 前田直子 (2009) 『日本語の複文—条件文と原因・理由文の記述的研究』東京: くろしお出版.

記号: 1=first person、2=second person、3=third person、F=feminine、N=neuter、M=male、SG=singular、PL=plural、PP=postposition、OBL=oblique、LOC=locative、NEG=negation、DAT=dative、REL=relative、COR=correlative、FUT=future、NON.FIN=non-finite、PFV=perfective、IPFV=imperfective、PRS=present、PST=past、PST.HAB=past habitual、PROSP=prospective、PART=particle、ASSR=assertive

マラーティー語の発音: 1) ə は短母音、a は長母音として区別される。2) i と u の母音の長短は音素として区別されない。3) ɔ と æ は借用語にのみ使われる。